

## 市勢データ

「人口」、「事業所」、「工業」など主要な統計調査結果をもとに、近年の推移等をまとめました。



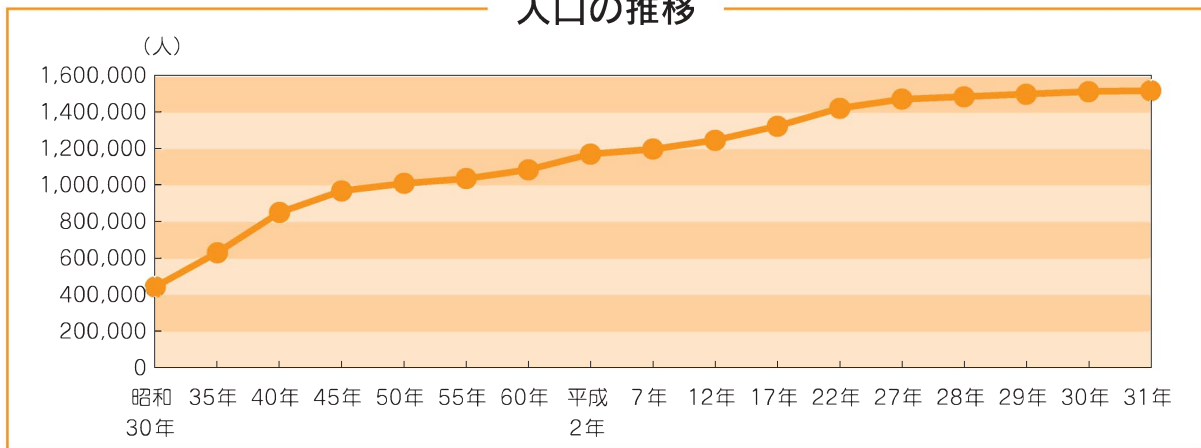
# 人口の推移

●人口は約152万人、増加が続く

(単位：人)

年次	面積 (km <sup>2</sup> )	人口			性比 (女性=100)	備考
		総数	男	女		
昭和30年	131.26	445,520	231,894	213,626	108.6	国勢調査人口(10月1日)
35年	132.93	632,975	334,490	298,485	112.1	〃
40年	136.17	854,866	451,537	403,329	112.0	〃
45年	136.17	973,486	511,073	462,413	110.5	〃
50年	141.24	1,014,951	532,890	482,061	110.5	〃
55年	142.16	1,040,802	543,269	497,533	109.2	〃
60年	142.63	1,088,624	569,061	519,563	109.5	〃
平成2年	143.47	1,173,603	617,425	556,178	111.0	〃
7年	143.87	1,202,820	629,804	573,016	109.9	〃
12年	144.35	1,249,905	649,997	599,908	108.3	〃
17年	144.35	1,327,011	687,080	639,931	107.4	〃
22年	144.35	1,425,512	728,525	696,987	104.5	〃
27年	144.35	1,475,213	749,038	726,175	103.1	〃
28年	144.35	1,489,477	755,844	733,633	103.0	推計人口(10月1日)
29年	144.35	1,503,690	762,262	741,428	102.8	〃
30年	144.35	1,516,483	767,990	748,493	102.6	〃
31年	144.35	1,522,241	770,428	751,813	102.5	推計人口(4月1日)

## 人口の推移



## データチェック

市制施行した大正13年末の川崎市の人口は約5万人でしたが、昭和5年には10万人、10年には15万人、15年には30万人を超えました。20年12月の戦後の人口調査では約20万人に激減しましたが、25年には戦前を上回る約33万人となりました。高度経済成長により大幅に増加し、32年には50万人を超え、政令指定都市に移行した翌年の48年に100万人の大台を超えました。

それ以降も、市北西部の宅地開発や住宅価格の安定による都心回帰などにより増加が続き、昭和61年には110万人、平成5年には120万人、16年には130万人を超えました。

さらに、工場跡地等の大規模な住宅建設などにより増加が続き、平成21年には140万人、29年には150万人を超え、31年4月1日現在では152万2,241人となっています。

# 2

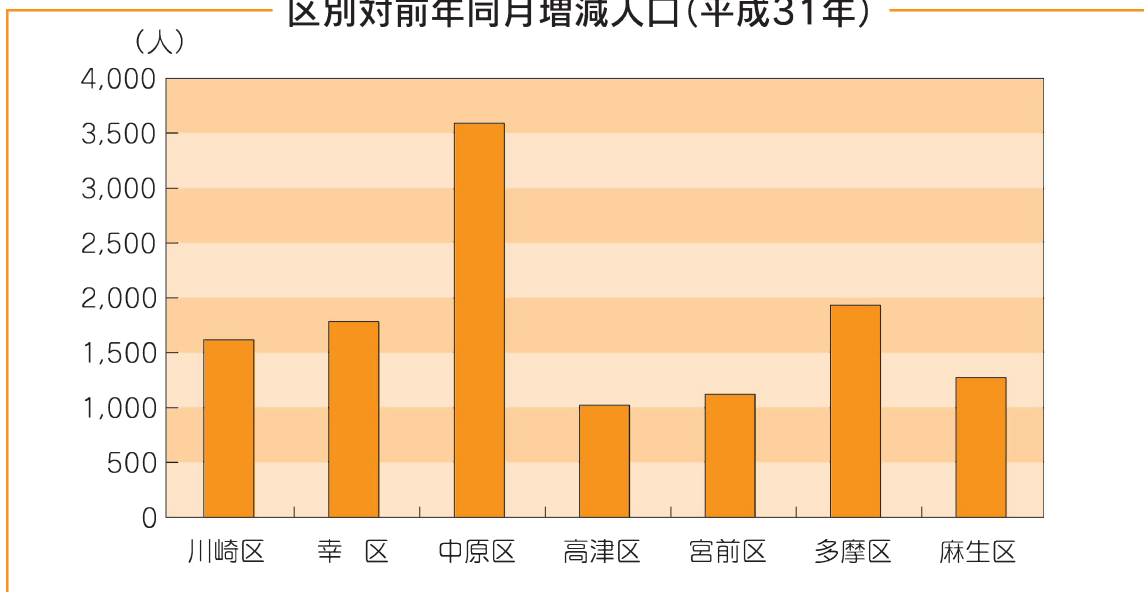
## 区別人口

●人口増加数は中原区が最も多い

(単位：人)(平成31年4月1日)

区 別	面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数 (世帯)	人 口			前年同月人口	対前年同月 増減人口	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
			総 数	男	女			
川崎市	144.35	734,501	1,522,241	770,428	751,813	1,509,887	12,354	10,545
川崎区	40.25	119,208	231,973	124,742	107,231	230,353	1,620	5,763
幸 区	10.09	80,393	168,362	84,958	83,404	166,577	1,785	16,686
中原区	14.81	132,221	260,203	132,487	127,716	256,612	3,591	17,569
高津区	17.10	112,323	232,179	116,609	115,570	231,154	1,025	13,578
宮前区	18.60	99,937	231,477	113,048	118,429	230,353	1,124	12,445
多摩区	20.39	112,446	218,955	111,817	107,138	217,023	1,932	10,738
麻生区	23.11	77,973	179,092	86,767	92,325	177,815	1,277	7,750

区別対前年同月増減人口(平成31年)



### データチェック

川崎市の人口を行政区別にみると、中原区が26万203人(全市の17.1%)と最も多く、次いで高津区が23万2,179人(同15.3%)、川崎区が23万1,973人(同15.2%)、宮前区が23万1,477人(同15.2%)、多摩区が21万8,955人(同14.4%)の順となっており、この5区が20万人を超えています。

前年と比べると全区で人口が増加しており、中原区が3,591人(対前年同月増加率1.4%)と最も増加し、次いで多摩区が1,932人(同0.9%)、幸区が1,785人(同1.1%)の順となっています。

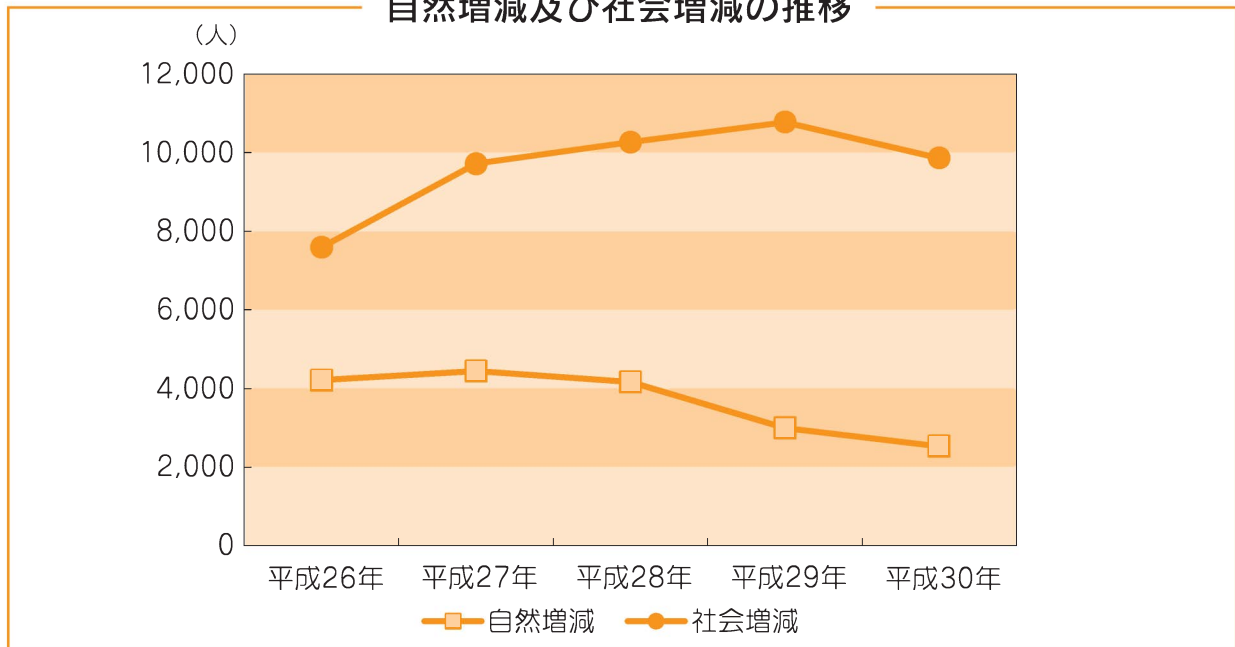
# 人口の自然増減と社会増減

●全区で社会増減がプラス

(単位：人)

年次・区別	人口増減	自然増減			社会増減		
		計	出生	死亡	計	転入	転出
平成26年	11,812	4,211	14,395	10,184	7,601	99,953	92,352
27年	14,171	4,444	15,015	10,571	9,727	107,700	97,973
28年	14,441	4,167	14,722	10,555	10,274	105,390	95,116
29年	13,780	2,994	14,136	11,142	10,786	107,936	97,150
30年	12,399	2,527	13,816	11,289	9,872	107,949	98,077
30年区別内訳							
川崎区	1,680	▲ 555	1,719	2,274	2,235	16,459	14,224
幸区	1,009	305	1,742	1,437	704	11,146	10,442
中原区	4,128	1,248	2,863	1,615	2,880	22,887	20,007
高津区	1,165	676	2,239	1,563	489	16,566	16,077
宮前区	1,245	477	2,009	1,532	768	14,016	13,248
多摩区	1,649	423	1,905	1,482	1,226	15,946	14,720
麻生区	1,523	▲ 47	1,339	1,386	1,570	10,929	9,359

### 自然増減及び社会増減の推移



### データチェック

平成30年の自然増減は2,527人の増加で、区別内訳をみると中原区が1,248人で最も増加数が多くなっています。自然増減が減少(マイナス)となっているのは川崎区及び麻生区で、他の5区は増加(プラス)となっています。

社会増減は9,872人の増加で、区別内訳をみると中原区が2,880人で最も増加数が多くなっています。また、全ての区で社会増減は増加(プラス)となっています。

# 4

## 年齢別人口

### ● 老年人口の構成比が上昇

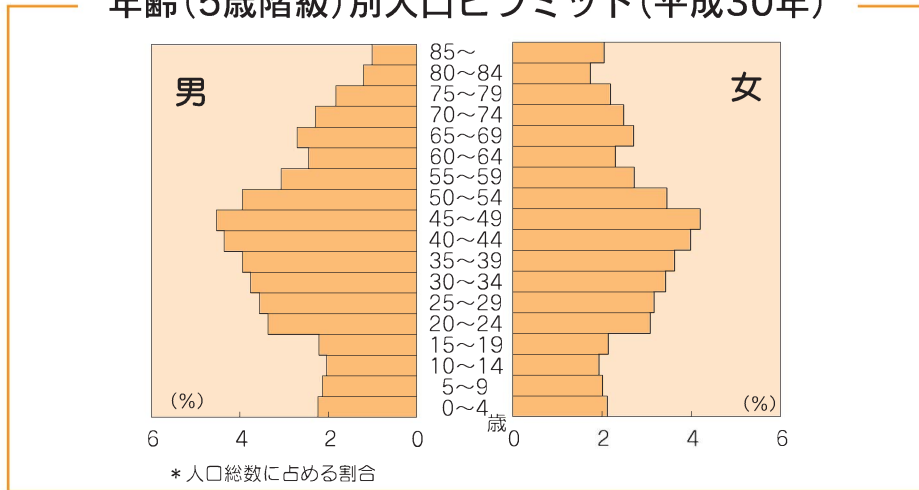
(単位：人)(各年10月1日)

年齢階級別	平成29年 総数	平成30年			構成比(%)		増加率(%)
		総数	男	女	平成29年	平成30年	
総数 (歳)	1,503,690	1,516,483	767,990	748,493	100.0	100.0	0.9
0～4	66,468	66,065	33,865	32,200	4.4	4.4	▲ 0.6
5～9	62,812	62,937	32,341	30,596	4.2	4.2	0.2
10～14	59,579	60,279	30,905	29,374	4.0	4.0	1.2
15～19	65,735	66,014	33,559	32,455	4.4	4.4	0.4
20～24	95,393	97,835	51,092	46,743	6.3	6.5	2.6
25～29	100,743	101,962	53,968	47,994	6.7	6.7	1.2
30～34	111,596	109,026	57,097	51,929	7.4	7.2	▲ 2.3
35～39	116,642	114,782	59,776	55,006	7.8	7.6	▲ 1.6
40～44	130,145	126,480	66,065	60,415	8.7	8.3	▲ 2.8
45～49	129,910	132,451	68,774	63,677	8.6	8.7	2.0
50～54	107,393	112,274	59,858	52,416	7.1	7.4	4.5
55～59	83,846	87,762	46,448	41,314	5.6	5.8	4.7
60～64	71,914	71,917	37,043	34,874	4.8	4.7	0.0
65～69	87,025	82,140	41,026	41,114	5.8	5.4	▲ 5.6
70～74	68,810	72,446	34,763	37,683	4.6	4.8	5.3
75～79	58,590	60,933	27,728	33,205	3.9	4.0	4.0
80～84	44,065	44,725	18,352	26,373	2.9	2.9	1.5
85以上	43,024	46,455	15,330	31,125	2.9	3.1	8.0
(再掲)							
15歳未満	188,859	189,281	97,111	92,170	12.6	12.5	0.2
15～64歳	1,013,317	1,020,503	533,680	486,823	67.4	67.3	0.7
65歳以上	301,514	306,699	137,199	169,500	20.1	20.2	1.7

\* 総務省の公表した「平成27年国勢調査人口・年齢・国籍不詳をあん分した人口」による年齢別人口を基数として、住民基本台帳の年齢別移動人口を加減して推計したものである。

※ 「あん分」とは、基準となる数量に比例させて分けることである。

### 年齢(5歳階級)別人口ピラミッド(平成30年)



### データチェック

平成30年10月1日現在の川崎市の年齢(3区分)別人口は、15歳未満の年少人口が18万9,281人(総人口の12.5%)、15～64歳の生産年齢人口が102万503人(同67.3%)、65歳以上の老年人口は30万6,699人(同20.2%)となり、前年と比べて、人口総数は12,793人(0.9%)、年少人口は422人(0.2%)、生産年齢人口は7,186人(0.7%)、老年人口は5,185人(1.7%)増加しています。

年齢(3区分)別構成比は、前年と比べて、年少人口及び生産年齢人口は低下し、老年人口は上昇しています。

年齢(5歳階級)別では、男女ともに45～49歳が最も多くなっています。また、前年と比べて、0～4歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳、65～69歳で減少し、他の年齢階級では増加しています。

## 5

## 昼夜間人口

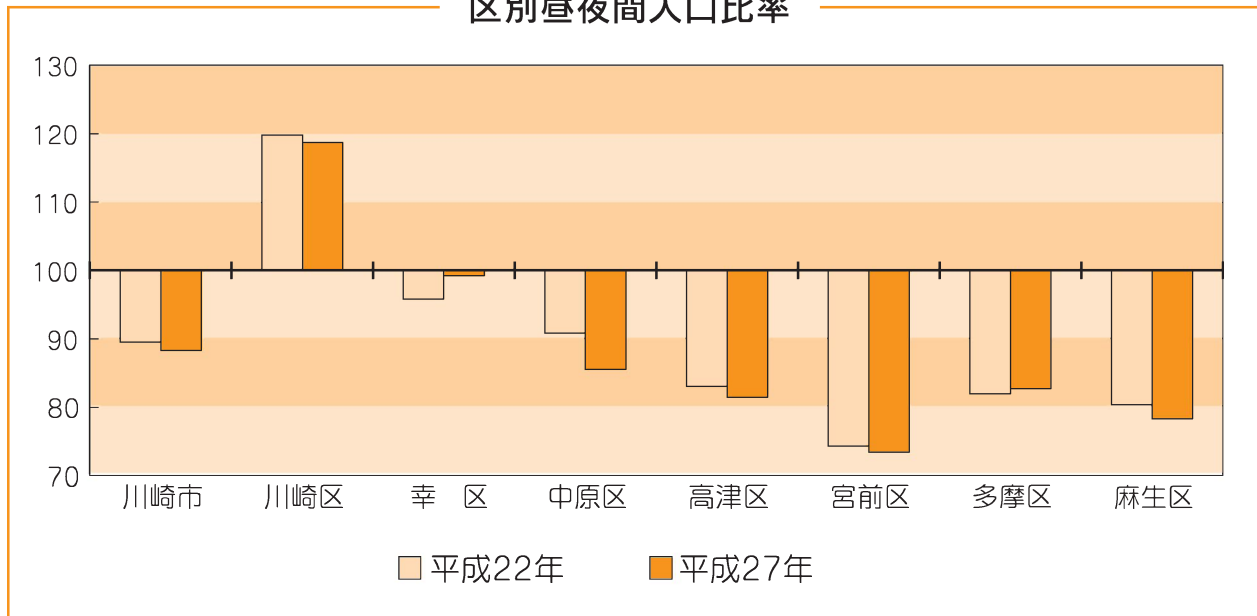
●昼夜間人口比率が100を超えているのは川崎区のみ

(単位：人) (各年10月1日)

区別	平成27年		昼夜間人口比率(昼間人口÷夜間人口×100)	
	夜間人口 (常住人口)	昼間人口	平成22年	平成27年
川崎市	1,475,213	1,302,487	89.5	88.3
川崎区	223,378	265,121	119.8	118.7
幸区	160,890	159,707	95.8	99.3
中原区	247,529	211,644	90.9	85.5
高津区	228,141	185,794	83.1	81.4
宮前区	225,594	165,620	74.3	73.4
多摩区	214,158	177,142	81.9	82.7
麻生区	175,523	137,459	80.3	78.3

(国勢調査)

区別昼夜間人口比率



## データチェック

平成27年の国勢調査結果をみると、川崎市の昼間人口は130万2,487人で夜間(常住)人口の147万5,213人を17万2,726人下回っており、通勤や通学で市外へ流出する人が多いことが分かります。

夜間(常住)人口100人当たりの昼間人口を示す昼夜間人口比率は、川崎市全体では88.3となっており、区別にみると川崎区が118.7で市内7区で唯一100を超え、昼間人口が夜間(常住)人口を上回っています。また、前回(平成22年)と比べると幸区と多摩区で昼夜間人口比率が上昇し、他の5区では低下しています。

# 6

## 労働力状態

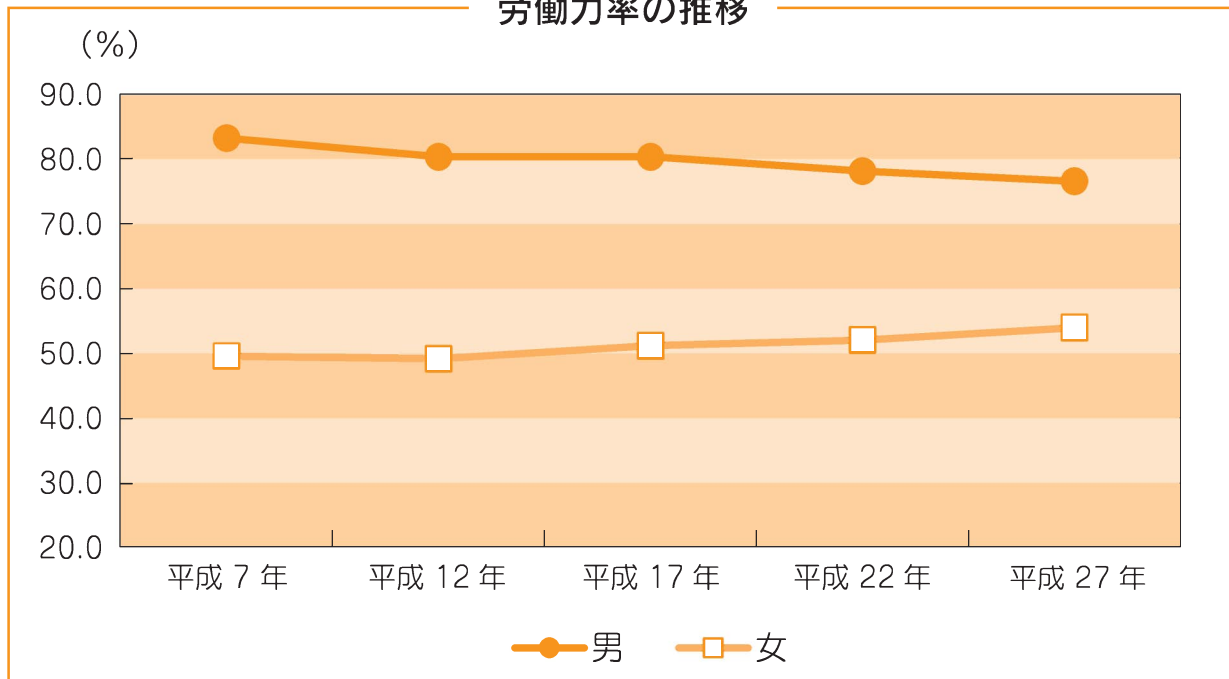
●男性の労働力率は低下、女性の労働力率は上昇

(単位：人)(各年10月1日)

労働力状態	平成22年			平成27年		
	総数	男	女	総数	男	女
15歳以上人口	1,225,838	625,484	600,354	1,252,458	633,511	618,947
労働力人口	673,411	404,382	269,029	702,036	409,628	292,408
┌ 就業者	638,433	381,698	256,735	676,420	393,212	283,208
└ 完全失業者	34,978	22,684	12,294	25,616	16,416	9,200
非労働力人口	361,460	113,082	248,378	374,795	125,080	249,715
労働力率(%)	65.1	78.1	52.0	65.2	76.6	53.9
就業率(%)	61.7	73.8	49.6	62.8	73.5	52.2
完全失業率(%)	5.2	5.6	4.6	3.6	4.0	3.1

(国勢調査)

労働力率の推移



### データチェック

平成27年の国勢調査結果をみると、労働力人口は70万2,036人で、前回(平成22年)と比べて2万8,625人(4.3%)増加しています。男女別にみると、男性は40万9,628人で5,246人(1.3%)増加し、女性は29万2,408人で23,379人(8.7%)増加しています。労働力率(15歳以上人口に占める労働力人口の割合)は65.2%で、22年と比べて0.1ポイント上昇しています。

完全失業者(仕事を探している人)は2万5,616人で、前回と比べて9,362人(26.8%)減少し、完全失業率(労働力人口に占める完全失業者の割合)は3.6%で、22年と比べて1.6ポイント低下しています。

非労働力人口(家事従事者、通学者、高齢者など)は37万4,795人で、前回と比べて1万3,335人(3.7%)増加しています。

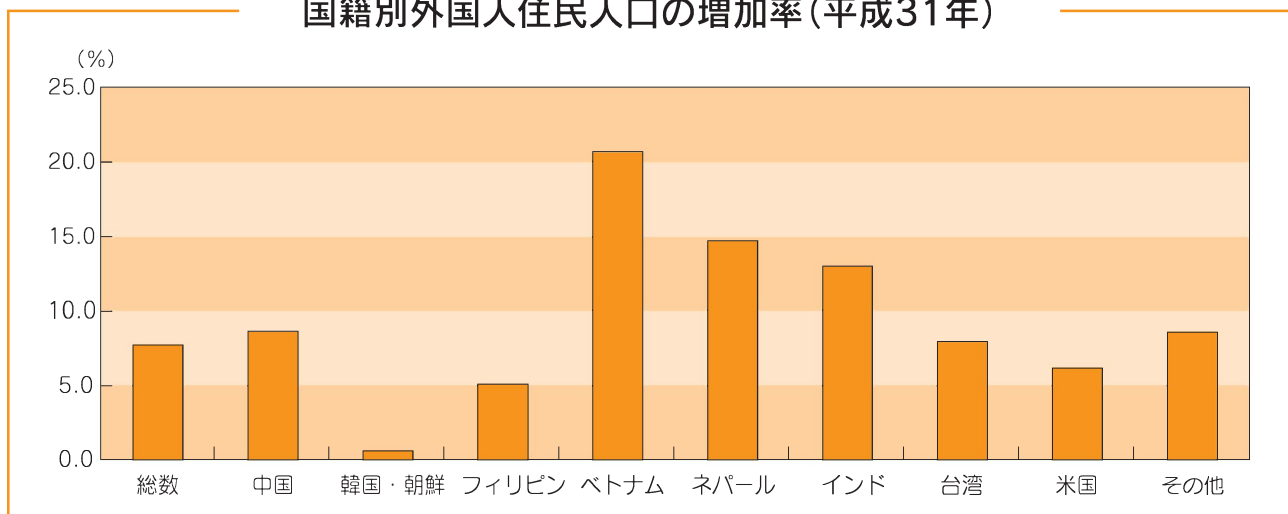
## 外国人住民人口

●外国人住民が4万人を超える

(単位：人)(各年3月末日)

年次・区別	総数	中国	韓国・朝鮮	フィリピン	ベトナム	ネパール	インド	台湾	米国	その他
平成27年	31,330	10,787	7,812	3,771	1,294	531	774	745	733	4,883
28年	33,577	11,527	7,842	3,898	1,868	740	826	841	779	5,256
29年	36,418	12,905	7,979	4,037	2,309	938	915	937	828	5,570
30年	39,587	14,184	8,074	4,226	2,857	1,129	1,069	1,033	959	6,056
31年	42,635	15,410	8,124	4,441	3,448	1,295	1,208	1,115	1,018	6,576
31年区別内訳										
川崎区	15,902	6,061	3,407	1,775	1,632	410	559	263	90	1,705
幸区	5,222	2,174	933	549	355	206	204	128	75	598
中原区	5,867	2,053	1,099	467	298	280	130	266	269	1,005
高津区	4,786	1,411	876	599	390	167	115	165	182	881
宮前区	3,528	999	643	402	282	33	70	105	128	866
多摩区	4,607	1,699	710	501	320	177	80	105	162	853
麻生区	2,723	1,013	456	148	171	22	50	83	112	668

国籍別外国人住民人口の増加率(平成31年)



## データチェック

平成31年3月末日の住民基本台帳による外国人住民人口は4万2,635人で、前年の3万9,587人と比べて3,048人(7.7%)増加し、4万人を超えました。国籍別にみると、最も増加したのは中国で1,226人(8.6%)増加しています。次いでベトナムが591人(20.7%)増加しています。

国別では、中国が15,410人(総数の36.1%)で最も多く、次いで韓国・朝鮮が8,124人(同19.1%)、フィリピンが4,441人(同10.4%)、ベトナムが3,448人(同8.1%)、ネパールが1,295人(同3.0%)となっています。

外国人住民人口を区別にみると、最も多いのは川崎区の1万5,902人(総数の37.3%)で、次いで中原区の5,867人(同13.8%)、幸区の5,222人(同12.2%)の順となっています。



# 8

## 婚姻と離婚

●婚姻率は中原区が最も高い

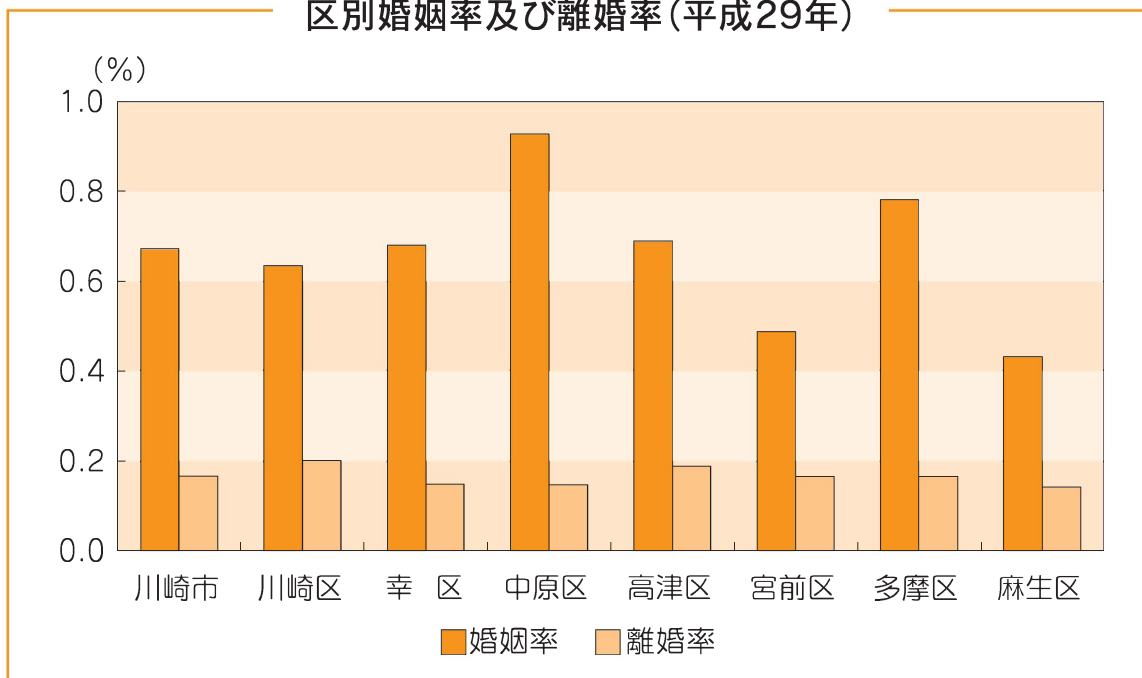
(単位：件、%)

年次	婚姻	婚姻率	離婚	離婚率
平成25年	10,340	0.714	2,529	0.175
26年	10,307	0.705	2,509	0.172
27年	10,324	0.700	2,564	0.174
28年	10,008	0.672	2,458	0.165
29年	10,115	0.673	2,504	0.167
29年区別内訳				
川崎市	1,458	0.635	461	0.201
幸区	1,130	0.681	246	0.148
中原区	2,360	0.929	373	0.147
高津区	1,589	0.689	434	0.188
宮前区	1,119	0.488	379	0.165
多摩区	1,693	0.781	358	0.165
麻生区	766	0.432	253	0.143

\* 婚姻率及び離婚率は各年10月1日現在の総人口100人に対する割合

(人口動態調査)

区別婚姻率及び離婚率(平成29年)



### データチェック

平成29年の人口動態調査結果をみると、婚姻件数は1万115件と前年に比べて107件(1.1%)増加しています。婚姻率は0.673%で、前年と比べて0.001ポイント上昇しています。また、離婚件数は2,504件で、前年に比べて46件(1.9%)増加しています。離婚率は0.167%で前年と比べて0.002ポイント上昇しています。

区別にみると、婚姻率は中原区が最も高く、離婚率は川崎区が最も高くなっています。麻生区は婚姻率、離婚率ともに最も低くなっています。